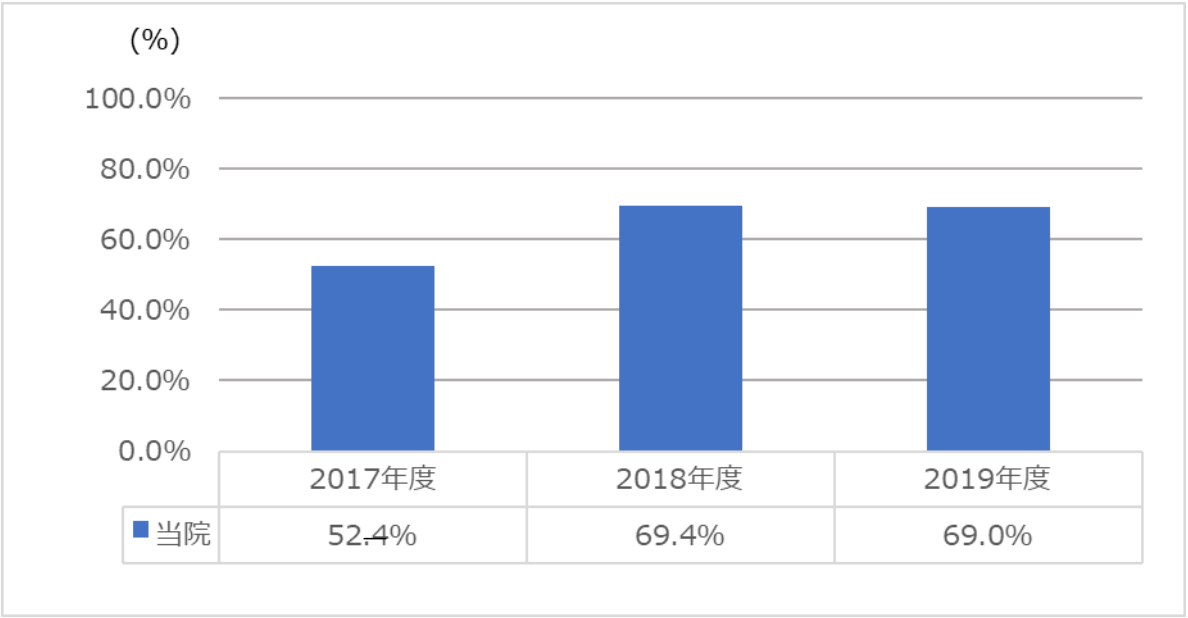
指標２９　胃癌に対する腹腔鏡下切除術率



＜定義＞

分子	:	分母のうち、下記別表２に示す手術を実施した症例数
分母	:	消化器外科における胃の悪性腫瘍の症例数
期間	:	2017 年度～2019 年度（１年毎に集計）
対象	:	上記期間の退院患者
値の解釈	:	高い方が望ましい

別表２

番号	Kコード	枝番	手術名１	手術名２
1	K654-3	1	腹腔鏡下胃局所切除術	内視鏡処置を併施するもの
2	K654-3	2	腹腔鏡下胃局所切除術	その他のもの
3	K655-2	1	腹腔鏡下胃切除術	単純切除術
4	K655-2	2	腹腔鏡下胃切除術	悪性腫瘍手術
5	K655-5	1	腹腔鏡下噴門側胃切除術	単純切除術
6	K655-5	2	腹腔鏡下噴門側胃切除術	悪性腫瘍切除術
7	K656-2		腹腔鏡下胃縮小術（ｽﾘｰﾌﾞ状切除によるもの）	
8	K657-2	1	腹腔鏡下胃全摘術	単純全摘術
9	k657-2	2	腹腔鏡下胃全摘術	悪性腫瘍手術

＜解説＞

当院では、胃がんの患者さん個々に合わせて根治性(癌を治す)と安全性を最優先に考えた治療の提供を心掛けていますが、近年、さらに低侵襲性（身体への負担が少ない）も考慮した腹腔鏡手術に積極的に取り組んでいます。ガイドラインに則して早期癌を主に、胃全摘術、噴門側胃切除術、幽門側胃切除術など、あらゆる術式に対応しています。また、胃腫瘍に対する内視鏡的合同手術（ＬＥＣＳ）による腹腔鏡下胃部分切除術も行っています。

※　本データは当院で収集したデータを基に作成しています。